

先進事例 1 : 株式会社キャタラー

【主な取組】

2015年：社内で風しん感染者が発生

- ・保健所及び国立感染症研究所の指導のもと、マスク着用、集団活動自粛、社内緊急説明会等により従業員の先天性風しん症候群への理解、感染拡大防止に向け対応
- ・抗体確認（個別アンケートによる調査）
- ・ワクチン接種（近隣医療機関の協力で、就業時間内に社内外で集団接種。費用の7割を会社負担）

結果：抗体保有率27%（236名）→92%（818名、自己申告含む）

2018年：風しんが全国的に流行

- ・従業員の抗体保有を再確認（母子手帳、接種記録により確認）
- ・全額会社負担でワクチン接種（近隣医療機関の協力で社内接種）

結果：抗体保有率99.2%（2019年時点）

2020年度以降：国の風しん対策への実施事項

- ・対象世代の従業員は、定期健診に併せて抗体検査受検を勧奨

現在

新入社員、中途入社者、派遣社員の接種状況を確認し、クーポン非配布者には会社負担でワクチン接種。

【取組の背景】

- ・東日本大震災を機に、自然災害や感染症等の脅威に備え、事業継続マネジメント（BCM）の構築を推進。
- ・会社の最優先事項は、「人命・安全最優先」「地域社会への貢献」及び「お客様への確実な供給継続」である。



2015年の風しん発生時、全従業員へ緊急説明会を実施



職場での集団接種の様子。予約制により離業時間を短縮。定期健診、ストレスチェックなどと同時開催

【皆様にメッセージ】

風しんは感染力が強く、感染者が発生すると本人はもとより家族、お客様にもご迷惑をおかけし、事業活動に大きな支障が出ます。

弊社は、働く皆が安心できる環境を整え、家族や仲間を守り、先天性風しん症候群を発生させない社会を築けるように、現在も対策を継続しています。

風しんはお子さんやお孫さんまで辛い思いをさせてしまう病気です。クーポン受領者はもとより、すべての皆さまが企業健診や集団健診などを利用して抗体検査を行い、「風しんゼロ」の社会を築きましょう。

先進事例2：ピジョン株式会社



【主な取組と結果】

- 2019年・風疹についての「教育講演」を社員向けに実施
講師は医師2名と風疹をなくそうの会『hand in hand』3名
- ・抗体検査及びワクチン接種（会社負担）を社員に呼びかけ
- ・社員への風疹の啓発活動とし従業員からの募金を実施し、風疹をなくそうの会『hand in hand』へ寄付
- ・会社からも同団体へ寄付（以降、会社からの寄付は継続）
- 2020年・入社時の健康診断に抗体検査を追加。
抗体が足りない場合は、会社負担でワクチン接種を推奨。
- 2021年・「風しんの日」に合わせ、社内報にて啓蒙を継続
- ・対象となる社員に対し、国からの抗体検査及びワクチン接種の無料クーポンがあることを再度、情報発信

<抗体検査・ワクチン接種の概略>

- ①2019年：会社負担で抗体検査・予防接種を呼びかけ
- ②2020年：入社時の健康診断に抗体検査を追加。予防接種推奨
- ③2021年：対象社員に抗体検査及びワクチン接種の無料クーポンを情報発信

📌実施結果（2022年2月現在）：対象者526人のうち、413人が受検（79%）

【取組の背景】

ピジョンでは、私たちがこの社会において存在している意味・そして果たすべき役割を「存在意義」として定め、「赤ちゃんをいつも真に見つめ続け、この世界をもっと赤ちゃんにやさしい場所にします」としています。この存在意義の元、2018年の風疹の流行を受け、育児に携わる企業として率先して取り組むべき社会課題と捉え、「ピジョン風疹ゼロアクション」プロジェクトを立ち上げました。



教育講演の様子



募金箱とポスター

【皆様にメッセージ】

- ・「教育講演」は、風疹がどのような感染症なのか、また風疹がもたらす被害の大きさを知る機会となり、社員が抗体検査及びワクチン接種をする大きな動機づけの1つになりました。接種が進まない要因の1つに風しんやそれがもたらす影響に対する認知不足があるので、まずはいかに理解度を上げるかが大事だと考えます。
- ・健診項目に入れる等の施策は、自然と受診する流れを作る上でも有効です。また、新規に入社する社員への健康診断に風疹の抗体検査を追加したり、社員への情報発信を行うなど、一時的な対策に終わらせず、地道な活動を継続的に実施することで、実を結んでいます。